

SSC 埼玉県障害者社会参加推進センタたより

令和3年12月30日 131号

編集

埼玉県障害者社会参加推進センター
〒330-8522さいたま市浦和区大原3-10-1
県障害者交流センター内

TEL 048-825-0707

FAX 048-825-3070

ssk080321@bz03.plala.or.jp

<http://saitama-shokyo.org/info/>NPO法人埼玉障害者センター
さいたま市浦和区大原3-10-1

一部100円(会費に含まれます)

10日・20日・30日

メールアドレス

HPアドレス

発行

〒330-8522

頒行

価値

発行

日

第42回

埼玉障害者まつりを終えて

障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会



事務局長 若山孝之

第42回埼玉障害者まつりは、埼玉県障害者交流センターを会場として、オンラインを併用して開かれました。新型コロナウイルスの収束をみず、昨年同様、開催が危ぶまれました。昨年はオンラインと言いながら、何をどうしていいのかわからず、決断までの時間が長かつたです。

今回は、オンラインの困難さと合わせて、感染拡大という大波が襲いました。感染者が増え始めてきた7月、オンラインで、いかなる状況でもと開催を決意しました。

しかし、8月、9月の感染爆発が起きました。障害者施設でのクラスター発生がありました。延期と言っても、この先々感染が縮小していくという見通しもなく、実施の方向で進んでいきました。実行委員会や事務局会議も少人数、オンラインで行いました。しつかりと議論をして、内容の検討や役割分担を決定していくことが十分にできませんでした。「何とか実施できる」という、唯一の確信と言えれば昨年行えたということだけでした。準備もままならない中、夏を過ごしました。最少人数でも大丈夫なように体制を組みました。10月10日に、もしかした

局員もいました。

内容は、そのような状況でも、新しいアイデアと新企画を織り交ぜて構成しました。「ZOO Mだと、2時間がいいとこかも」という意見もありましたが、4時間編成ということにしました。いざ、編成してみると、計画していた映像の入手が困難であったり、どう組み立てるか苦労しました。また、グーグルドライブで映像を送るなど初めての経験もしました。

過去のも含め映像の提供してもらいました。また、収録しに出掛けたものもありました。3組の生出演、体育館でのボッチャ体験、埼玉県障害者協議会のスポーツ担当の方々の参加はまつりを盛り上げるために、力も強かつたです。



ま
つ
り



でも発表の機会がもてたことがうれしいという表現がそのままの演奏でした。

緊急事態宣言が解除され、自宅待機が解禁になったとして、参加ができるようになつた事務局員もいました。当日を迎え、

機器のスタッフも配置でき、何とか、スタートを切ることができました。オープニングは、障害者福祉推進課課長の来賓あいさつで、あらかじめ収録していきました。

午後の出演

では、「いい湯だな」のリクエストがありました。



小規模作業所の課題、暮

らしの場（手記「ねがい」）は会場に掲示され、スマホで紹介されました。肝心な読み上げは音声が届きませんでした。（視覚

が、小さな画面になるというハプニングが、初めから起きてしました。交流センター所長、実行委員長のあいさつに続き、夏野菜のメンバーによる太鼓の演奏、合同での練習ができず、

設置基準が長年の運動の中で実現したという報告が映像で流されました。コロナ禍でイベントなどが中止になり販売がままならない作業所の製品の紹介、たくさんの中継しました。声もしつかりと聞き取れました。実演も交えて、ゲームの紹介がありました。ともしひは生出演、会場内に声量豊かな声が響きわたりました。直接の歌声はやつぱり響いてきます。

待ち人が出るなど来客があります。

午後の出演

では、「いい湯だな」のリクエストがありました。

30年前のまつりの写真、それぞれ中継されました。急遽お願いしたマッサージも午後からは、

会場及びオンラインでの視聴を含め、のべ 150 人程が参加したと思われます。短時間の準備でしたが、出演された皆さん

の方が大写しになり、課長さんただいた映像でした。手話通訳の方が大写しになり、課長さんが、小さな画面になるというハ

たまつりでした。チラシは、埼玉県聴覚障害者協会の方に依頼し、作成されました。秋のまつりらしいチラシが出来上がりました。

ステージの出演者が暗い画面に現したという報告が映像で流れました。何しろ、生番組の制作ですから、途中で、送信ができなくなっている点描画の紹介もありました。会場では、戦争展、機関紙展示、30年前のまつりの写真、それぞれ中継されました。急遽お願いしたマッサージも午後からは、

今日は、経験豊富とはいえ、若干の不安をもっていました。ヒヤヒヤしていました。最後まで、

中継は切れる事なく、ホッとしました。

準備の遅れから、呼びかける時間がなく、ZOOM の参加者が思つたより、少なかつたです。もつと呼びかけを丁寧にして、

参加を組織することがオンラインでのまつり重要なところです。これからもオンラインと併用したまつりになると思います。「外国からの中継もできる」など可能性はまだまだあります。

それでも、来年こそ多くの人が集まつたり、機材の不十分さも課題として出てきました。

ステージの出演者が暗い画面になつたり、機材の不十分さも課題として出てきました。

中継の音声が流れなかつたり、歌声の声量に音響設備が付いていませんでした。歌聲の声量に音響設備が付いていませんでした。

でも、来年こそ多くの人が集まつたり、照明の具合で、

高齢と障害で訪問介護事業

「あげいん」を開設

埼玉県障がい者共同作業所 所長 白石欣彦

埼玉県障害者協議会の皆様な
ただきます。

らびにご関係者の皆様におかれ
ましては、益々ご健勝のことと

お喜び申し上げます。

当施設は、さいたま市南区の

住宅街に位置し最寄り駅は、J

R中浦和駅と武蔵浦和駅の真中

あたりにあります。昭和40年7

月に、障害者B型作業所と入所

支援施設として開設いたしまし

た。現在もクリーニング作業を

中心に通所50名と入所20名の

方々が活動されております。そ

しく「訪問介護事業」を開設い
たしました。

その訪問介護事業を担う課長

でサービス提供責任者でもある、
篠田幸和がごあいさつさせてい

安定的な事業運営には今後も
努力と経験の積み重ねが必要に
なるので、地域事業所との関係

を築きながら、当事業所をアピ
ールして繁栄を目指します。
また、業務にあたるスタッフ
にとつて働き易い職場にも取り
組んでいます。事業所内の雰囲
気や環境づくりで、

頑張り過ぎず適度に頑張る！

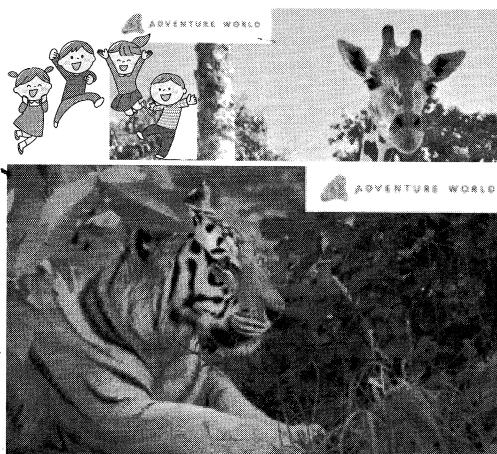
余裕をもつて働けるように業務
の組み立てをする！等。

これからもご支援ご指導を心
よりお願い申し上げます。

募です。

高齢と障害のヘルプに関心の
ある方は、お問い合わせお待ち
しております。





埼玉県心臓病の子どもを守る会では、平成 29 年（2017 年）から募集が始まった埼玉県小慢児童等相互交流支援事業に応募して、毎年、病児家族を対象としたイベントを開催しています。昨年度からはオンラインに切り替え、長引くコロナ禍にいる子どもたちに、何か楽しいイベントを！と役員会で検討を重ねました。

病児は学校の宿泊行事等でみ

んなと一緒に行動できないことがあります。でもオンラインなら一緒に体験できる！遠くまで行ける！と考え、今年度は和歌山県のアドベンチャーワールドとライブ中継しながらのオンラインツアーや（インターネットを通じて楽しむ疑似旅行）を企画。

夏休み中は会員限定の『園内ツアーや』を、9 月には小慢事業の意義や本会を広く知つてもらうため、県内病院に通う小慢対象児にも参加を募つての『サファリツアーや』を開催しました。

オンラインツアーやは当然ながら画面を見て楽しむものです。

オンラインで使用するアプリに不慣れな会員には個別に接続テストを行い、スマホでの参加予定者にはテレビに接続できるコネクタを貸し出して、子どもたちがより楽しく臨場感のある体

験ができるよう、環境づくりにも尽力。当日はプロジェクトエクターに繋げて参加された家族もいました。

8 月 22 日の『園内ツアーや』は、32 家族 43 人の子どもたちが参加。9 月 26 日の『サファリツアーや』では、病棟からの参加やオンライン行事を検討中の団体、一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会の各都道府県支部からの参加もあり、2 日間で 91 人（実

人数）の病児が一緒に楽しむことができました。

両日ともトラブルなく開催できました。

サファリツアーやでは、車に乗

8 月 22 日の『園内ツアーや』は、32 家族 43 人の子どもたちが参加。9 月 26 日の『サファリツアーや』では、病棟からの参加やオンライン行事を検討中の団体、一般社団法人全国心臓病の子どもを守る会の各都道府県支部からの参加もあり、2 日間で 91 人（実

人数）の病児が一緒に楽しむことができました。

ツアーや後は 15 分の休憩をはさみ交流会。埼玉から現地へ行く方法を紹介したり、ガイドさんに、さらに質問に答えてもらつたりして、最後に感想を共有しました。お別れの際は全員で画面に手を振り、参加者が各々マイクをオンにして「ありがとうございます！」、「楽しかった～！」と声が上がりました。大人たちにも新たな学びがあり、生き物たちにも癒され、そして何より見えた子どもたちの笑顔に元気をもらいました。



アドベンチヤーワード

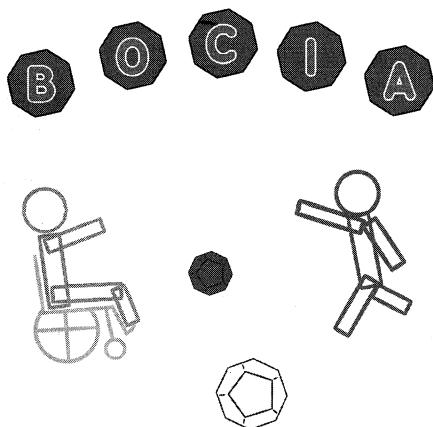
埼玉県心臓病の子どもを守る会

とカメラさんがホワイトタイガーやサイなど次々と動物を映し出します。ガイドさんの説明とともに、カメラも一緒に近づいていくと、子どもたちは口々に「大きいね」「すごいね」と言ったり、チャットで発言したりと盛り上がります。ガイドさんは子どもたちがチャットに書き込んだ質問にもスムーズに答えてくれ、双方向のやり取りで子どもたちは一層引き込まれていました。

都道府県名	人数
栃木	1
埼玉	46
千葉	1
東京	11
神奈川	7
石川	1
長野	1

都道府県名	人数
岐阜	1
静岡	1
愛知	3
滋賀	1
京都	5
大阪	2
奈良	1
鹿児島	1
合計	91

都道府県名	人数
岡山	1
広島	2
徳島	2
愛媛	1
香川	1
佐賀	1
鹿児島	1
合計	91



「赤のボールが近い、青が近い」等とマスク越しに歓声を上げながら、久方ぶりに障害者まつり行事の一環としてスポレク教室「ボッチャ競技大会」をセンター体育館で開催しました。

スポレク
教室

スポーツ・レクリエーション教室実行委員長

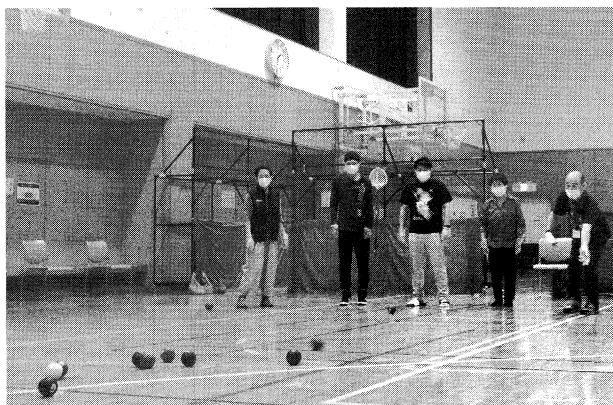
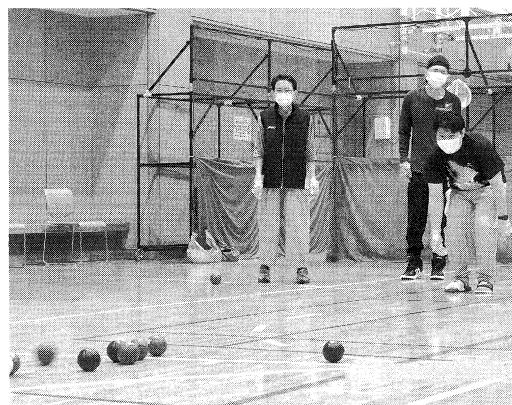
八木田 やぎた 吉成 よしなり

「ボッチャ競技大会」を開催して

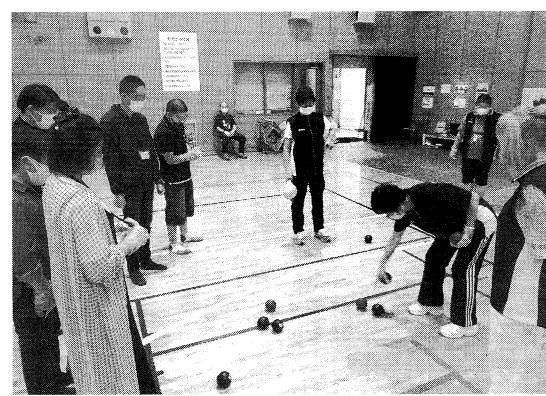
1時から2コートを使い実施しました。

ボッチャを初めてやる方、久方ぶりに体育館で身体を動かす方等色々でしたが、意外と簡単なルールと思うようにならない皮製ボールに一喜一憂しながら「3年後のパリを目指そう?」の声も出ることなく、盛り上がった2時間余でした。

来年度は、より多くの施設で多くの人に楽しんで頂くスポーツ事業ができるよう願い、計画実施する所存です。



例年ですと、障害者まつりを含め県内3~4箇所で行うスポーツ事業も、コロナ禍で昨年来できませんでしたので緊急事態宣言が解除になった今回、先のパラリンピックで盛り上がった「ボッチャ競技」に絞りコロナ対策を最優先に、午前に会場作り、オンライン放送での競技概要・ルール説明等を行い、午後



青・赤ともに6球ずつ投げ終わった後は点数確認を参加者全員しました。

難病患者就労セミナーに参加して

(埼玉県難病患者就労支援センター事業)

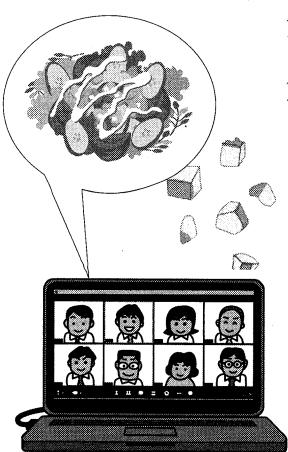
一般社団法人 埼玉県障害難病団体協議会

事務局 相談員 石橋 優輝

「難病患者の就労支援セミナー&ワークショップ」を 10 月に 2 日間に分けて ZOOM で開催しました。難病当事者で就職先を探している方、職場での理解を求めている方、患者団体運営に関わり就労相談を受けていたりが参加されました。講師は就労支援ネットワーク ONE の中金竜次氏です。

1日目演題は
「患者会・コミュニティーと就労の取組のヒント」です。

まず初めに自己紹介を行い、1 人 5 分程度で参加の理由、患者コミニティーについて、自分をサラダの具材に例えたら何かといった内容です。



私はこの質問にケルトンと答えました。入っていたら嬉しいが、なくとも困らないもの、という

自己評価からです。私は難病当事者として参加しましたが、こ

の質問により当事者ではない、

個人として自己評価が出来たな

と感じました。ユニークなお題に思わず笑ってしまいました。ユーミングで参加者の緊張感は一気に解かれました。

2日目は
中金氏が活動している中での経験の共有、埼玉県難病患者就労サポートー(通称: 難サポ) 薄田氏から難サポの業務内容について講演がありました。

中金氏の経験を踏まえ、難病制度が利用されているか、どの制度が知られているか、制度があるのに使われていない課題は中金氏の支援者同士の交流を

図る活動について、講演の中で「会議を重ねることによつて温度が温まっていく」「情報のギブ＆テイクの最初はギブ」「事例を共有することによって事例が増える」の言葉は大変勉強になりました。薄田氏によると企業の従業員に対する考えは様々だという。企業の規模等ではなく、病気の症状との相性を見ることが大事だという。ディスカッションでは、難病の正社員がやり取りに時間がかかるなどの理由で企業が嫌がるという問題です。これは手続きの簡素化が進まない日本ならではの問題と思いました。良い制度が出来て思いました。良い制度があれば、も使われない可能性さえあるなと思いました。企業目線の事情まで知った上で難病啓発や声をあげていく必要があります。

中金氏が活動している中での経験の共有、埼玉県難病患者就労サポートー(通称: 難サポ) 薄田氏から難サポの業務内容について講演がありました。イスカッショーン等の一方通行の講演でなく参加者が発言できるセミナーになつていて中金氏の講演の姿勢に感銘を受けました。難病患者の就労は型にはまらずその人を見て進めていくことが大事だと改めて勉強になりました。

令和3年度 みんなしあわせ・共生社会県民のつどい開催報告

NPO法人埼玉県障害者協議会

郷古 珠美

令和3年度障害者週間記念事

業「みんな幸せ・共生社会県民

のつどい」が、12月5日（日）、

「彩の国いきいきセンターすぎ

とピア」にて開催されました。

この事業は、障害者に対する

県民の理解を深め、共生の心を

育む地域づくりを推進すること

を目的として毎年開催され、埼

玉県や埼玉県教育委員会、今年

度の開催地である杉戸町及び杉

戸町教育委員会と、埼玉県特別

支援教育推進協議会及び当埼玉

県障害者協議会が主催となつて

います。

杉戸町での開催は、本来は令

和2年度事業として行われる予

定でしたが、昨年は新型コロナ

ウイルス感染症拡大防止のため

に中止となり、今年度にようや

く開催することが出来ました。

開催当日はコロナウイルス感

染症防止のために様々な対策が

取られました。

まず参加者の手指消毒・検温

「音楽は言葉をこえて」が行わ

れる第1部では事前申込制にな

り、70名定員の人数制限がされ

ました。

午後の第2部、ステージ発表

は生徒たちがステージ上で直接

発表するの

ではなく、

事前に動画

を録画・編

集したもの

を上映する

。また、別室に飾られた障害者

絵画展や特別支援学校・特別支

援学級作品展の色鮮やかな絵や

工作作品が展示され、来場され

た方の目を楽しませていました。

今回の県民のつどいは杉戸町

の職員の方をはじめ埼玉県の職

員の皆さん、障害者団体関係者、

学生ボランティアなど、多くの

皆様の尽力のおかげで、コロナ

禍の中でもつつがなく終了しま

した。次の令和4年度開催時に

はこの感染症も収束し、今度こ

そ例年通りの形で開催できる状

況になつていることを願つてい

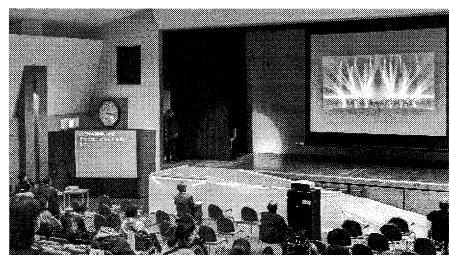
ます。



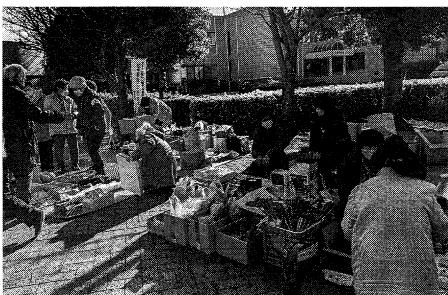
▲特別支援学校・特別支援学級作品展



創意工夫をこらした作品を鑑賞する▲
大野元裕知事



ステージ発表上映中の様子



障害者施設・団体等の青空市場の様子

ウイルス感染症拡大防止のため
に中止となり、今年度にようや
く開催することが出来ました。

開催当日はコロナウイルス感
染症防止のために様々な対策が
取られました。

まず参加者の手指消毒・検温

「音楽は言葉をこえて」が行わ

れる第1部では事前申込制にな

り、70名定員の人数制限がされ

ました。

午後の第2部、ステージ発表

は生徒たちがステージ上で直接

発表するの

ではなく、

事前に動画

を録画・編

集したもの

を上映する

。また、別室に飾られた障害者

絵画展や特別支援学校・特別支

援学級作品展の色鮮やかな絵や

工作作品が展示され、来場され

た方の目を楽しませていました。

今回の県民のつどいは杉戸町

の職員の方をはじめ埼玉県の職

員の皆さん、障害者団体関係者、

学生ボランティアなど、多くの

皆様の尽力のおかげで、コロナ

禍の中でもつつがなく終了しま

した。次の令和4年度開催時に

はこの感染症も収束し、今度こ

そ例年通りの形で開催できる状

況になつていることを願つてい

ます。

杉戸町での開催は、本来は令

和2年度事業として行われる予

定でしたが、昨年は新型コロナ

ウイルス感染症拡大防止のため

に中止となり、今年度にようや

く開催することが出来ました。

開催当日はコロナウイルス感

染症防止のために様々な対策が
取られました。

まず参加者の手指消毒・検温

「音楽は言葉をこえて」が行わ

れる第1部では事前申込制にな

り、70名定員の人数制限がされ

ました。

午後の第2部、ステージ発表

は生徒たちがステージ上で直接

発表するの

ではなく、

事前に動画

を録画・編

集したもの

を上映する

。また、別室に飾られた障害者

絵画展や特別支援学校・特別支

援学級作品展の色鮮やかな絵や

工作作品が展示され、来場され

た方の目を楽しませていました。

今回の県民のつどいは杉戸町

の職員の方をはじめ埼玉県の職

員の皆さん、障害者団体関係者、

学生ボランティアなど、多くの

皆様の尽力のおかげで、コロナ

禍の中でもつつがなく終了しま

した。次の令和4年度開催時に

はこの感染症も収束し、今度こ

そ例年通りの形で開催できる状

況になつていることを願つてい

ます。

杉戸町での開催は、本来は令

和2年度事業として行われる予

定でしたが、昨年は新型コロナ

ウイルス感染症拡大防止のため

に中止となり、今年度にようや

く開催することが出来ました。

開催当日はコロナウイルス感

染症防止のために様々な対策が
取られました。

まず参加者の手指消毒・検温

「音楽は言葉をこえて」が行わ

れる第1部では事前申込制にな

り、70名定員の人数制限がされ

ました。

午後の第2部、ステージ発表

は生徒たちがステージ上で直接

発表するの

ではなく、

事前に動画

を録画・編

集したもの

を上映する

。また、別室に飾られた障害者

絵画展や特別支援学校・特別支

援学級作品展の色鮮やかな絵や

工作作品が展示され、来場され

た方の目を楽しませていました。

今回の県民のつどいは杉戸町

の職員の方をはじめ埼玉県の職

員の皆さん、障害者団体関係者、

学生ボランティアなど、多くの

皆様の尽力のおかげで、コロナ

禍の中でもつつがなく終了しま

した。次の令和4年度開催時に

はこの感染症も収束し、今度こ

そ例年通りの形で開催できる状

況になつていることを願つてい

ます。

杉戸町での開催は、本来は令

和2年度事業として行われる予

定でしたが、昨年は新型コロナ

ウイルス感染症拡大防止のため

に中止となり、今年度にようや

く開催することが出来ました。

開催当日はコロナウイルス感

染症防止のために様々な対策が
取られました。

まず参加者の手指消毒・検温

「音楽は言葉をこえて」が行わ

れる第1部では事前申込制にな

り、70名定員の人数制限がされ

ました。

午後の第2部、ステージ発表

は生徒たちがステージ上で直接

発表するの

ではなく、

事前に動画

を録画・編

集したもの

を上映する

。また、別室に飾られた障害者

絵画展や特別支援学校・特別支

援学級作品展の色鮮やかな絵や

工作作品が展示され、来場され

た方の目を楽しませていました。

今回の県民のつどいは杉戸町

の職員の方をはじめ埼玉県の職

員の皆さん、障害者団体関係者、

学生ボランティアなど、多くの

皆様の尽力のおかげで、コロナ

禍の中でもつつがなく終了しま

した。次の令和4年度開催時に

はこの感染症も収束し、今度こ

そ例年通りの形で開催できる状

況になつていることを願つてい

ます。

杉戸町での開催は、本来は令

和2年度事業として行われる予

定でしたが、昨年は新型コロナ

ウイルス感染症拡大防止のため

に中止となり、今年度にようや

く開催することが出来ました。

開催当日はコロナウイルス感

染症防止のために様々な対策が
取られました。

まず参加者の手指消毒・検温

「音楽は言葉をこえて」が行わ

れる第1部では事前申込制にな

り、70名定員の人数制限がされ

ました。

午後の第2部、ステージ発表

は生徒たちがステージ上で直接

発表するの

ではなく、

事前に動画

を録画・編

集したもの

を上映する

。また、別室に飾られた障害者

絵画展や特別支援学校・特別支

援学級作品展の色鮮やかな絵や

工作作品が展示され、来場され

た方の目を楽しませていました。

今回の県民のつどいは杉戸町

の職員の方をはじめ埼玉県の職

員の皆さん、障害者団体関係者、

学生ボランティアなど、多くの

皆様の尽力のおかげで、コロナ

禍の中でもつつがなく終了しま

した。次の令和4年度開催時に

はこの感染症も収束し、今度こ

そ例年通りの形で開催できる状

況になつていることを願つてい

ます。

杉戸町での開催は、本来は令

和2年度事業として行われる予

定でしたが、昨年は新型コロナ

ウイルス感染症拡大防止のため

に中止となり、今年度にようや

く開催することが出来ました。

開催当日はコロナウイルス感

染症防止のために様々な対策が
取られました。

まず参加者の手指消毒・検温

「音楽は言葉をこえて」が行わ

れる第1部では事前申込制にな

り、70名定員の人数制限がされ

ました。

午後の第2部、ステージ発表

は生徒たちがステージ上で直接

発表するの

ではなく、

事前に動画

を録画・編

集したもの

を上映する

埼玉県内
障害者団体の
活動と交流拠点

「団体交流室」の入室団体を募集!



埼玉県障害者交流センター内に障害者団体の活動と交流を深める壁一つない団体交流室があります。平成 2 年 4 月 1 日に設置され、31 年が経過しています。全国的にもあまり例がない身体・精神・知的・難病などさまざまな障害を持つ人、関係者、障害者団体の活動と交流の拠点になっています。NPO 法人埼玉県障害者協議会（県内の障害者団体 36 団体が加盟）が、埼玉県から委託を受けて管理運営をしています。現在専任の職員を置き、机・パソコン等設置して活動している専用団体が 13 団体、ポストだけ置いて活動の所在地にしている利用団体が 8 団体あります。車いすユーザーの団体、聴覚障害の団体、難病患者の団体など様々な団体がコロナ禍でも交流を深め元気に活動しています。

現在専用団体の 4 机が空席になっています
ので、ぜひこの機会に一緒に活動を始めて
みませんか。ご利用をお待ちしています。

入室した場合、埼玉県障害者協議会に
加入して、一緒に活動していただきます

- (1) 団体交流室使用料は、毎月 4000 円です（光熱費含む）。事務机、椅子などは貸与します。
- (2) 製本ができるなど多用途な印刷機、コピー機など事務機器が所定の料金で利用できます。
- (3) 研修旅行、レクリエーション、親睦会などを開催して、交流を深めています。

<賛助会員加入のコーナー>

私たちは、埼玉県障害者協議会の活動を応援しています。



株式会社 大塚商会

東京本社 〒102-8573 東京都千代田区飯田橋2-18-4
札幌・仙台・名古屋・京都・大阪・神戸・広島・福岡

新しい年が
良い年でありますように

晃新印刷

〒336-0931 埼玉県さいたま市緑区原山2-23-25
電話 048-887-8006 FAX 048-887-3444

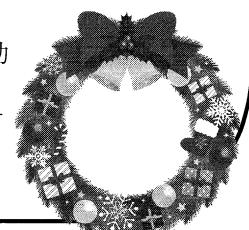
<賛助会員加入のお願い>

埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。

賛助会員には年 8 回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。賛助会員の会費は、年一口 2,000 円です。入会をご希望の方は、下記の口座へお振り込み下さい。

<郵便振替> 【口座番号】 00130-9-673233

【口座名称】 特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会



編集後記

令和 3 年 10 月に、埼玉県で初めて「エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例」が施行されました。「エスカレーターでは立ち止まり、歩かないようにしましょう」と駅構内でポスターやアナウンスで、呼びかけています。まだ施行されて間ないので、知らない人が多いようです。

今まで片側通行の利用が日常でしたが、これを機に「エスカレーターは歩かない」という新しい生活様式が浸透し、全ての人が安心して利用できるようになってほしいと思います。

(松本)

